

自然保育「ネイチャーウォーク」

ふゆのわくわくたんけん

晝間 初枝（四街道市）

日 時：2024年1月25日（木）9:30～11:00 天候：晴れ
場 所：八千代台北こどもの森
参加者：ChaCha Children Yachiyo 5歳児25名 保育士5名
担当指導員：小川・晝間

澄んだ青空に向かってそびえたつイチョウ、コナラ、クヌギなど落葉樹が立ち並び、冬ならではの光景が広がる八千代台北こどもの森。保育園から25分ほど歩いて元気な5歳児が到着。明るい日ざしが降り注ぐ絶好の探検日和である。

元気に大地を踏む体操のあと、探検開始。葉を落としたイチョウを見上げたあと、葉っぱ探し。樹皮に触ると「あったかい！」とぬくもりに驚きの声。反対側は日陰、ちょっと冷たい。日向と日陰の違いに気づいたようだ。隣にあるコナラの木、細長いドングリを探したり、樹皮に触ったりした。葉を落として枯れているように見えるけれども、枝先をよく見てみようと言をかけると小さな芽があることに気づく。並ぶように立つクヌギのそばでも丸いドングリを見つけたり、木に触ったり、枝先を見たり…。コナラより大きい芽がついていることがわかった。ほかにも芽があるか探そうと周辺を散策すると、「芽あるよ」「すごく小さい」といろいろ探して得意気。ここで、冬芽ということ伝え、探検カードの冬芽にシールを貼った。

木の根元の枯葉を棒で掻き出し、ワラジムシやダンゴムシ探し、カマキリの卵やセミの抜け殻など生き物も隠れていることを話し合う。ツバキの花や蕾を観察し、持ってきた蕾の中をカッターで切つてのぞいて見る。芝生に降りてきたムクドリが一斉に飛び立つ様子に驚いたり、芝生のモグラ塚の穴をのぞき込んだり…。

タイミングよくコブシの実を拾った子がいたことから、みんなで上を見上げるとコブシの冬芽が膨らんでいる。枝を下ろしてふわふわした冬芽に触り、用意した冬芽の鱗片を剥いでのぞいて見た。キンカンの実やアジサイの冬芽…。途中、霜柱を見つけてサクサク踏みつけたり、触ってみたり、見るもの全てに興味津々の子どもたちでした。アカメガシワの冬芽と葉痕を見てゴール。グループごとに今日のお気に入り相談して発表し合った。最後に絵本「ふゆのぺたんこぐさ」読んで、冬を生きるぺたんこぐさの様子や冬芽や虫、鳥などの様子を話し合い、まとめとしました。



体操・元気に出発



わあ！ダンゴムシみつけ